

大会宣言文(案)

急激な社会の変化の中で、人々の意識や価値観が多様化するとともに、地域の連帯感が希薄となり、家族の形態や親の子育てに関する意識も多様化し、それらの教育力の低下が指摘されています。このような環境で育っている子どもたちは、社会性や自己責任の観念、他者を思いやる温かい気持ち、望ましい人間関係を築く力などが十分に養われていないともいわれています。また、生活の中に情報機器が普及浸透することにより、便利さの反面、その「影」の部分への懸念も生じているなど、子どもたちの成長にとって憂慮すべき問題も存しています。

また、21世紀の社会は知識基盤社会といわれ、近年情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきています。とりわけ、第4次産業革命とも言われる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が社会や生活を大きく変えていくと考えられています。社会の変化は、これまで以上に加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、すべての子どもたちの生き方に影響するものとなっています。このような時代だからこそ、子どもたち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っ て関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけられるようにすることが重要です。

昨年度、「生きる力」の育成、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力などのバランスの重視、道徳教育や体育の充実などによる豊かな心や健やかな体を育成することを狙いとした次期学習指導要領が告示され、学校では、主体的で対話的な深い学び即ち「アクティブラーニング」の視点からの授業改革が進められています。

このような教育の転換期に、今回、「考え行動につなげよう 変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支援する者として」をメインテーマとして、高等学校及び特別支援学校PTAの会員代表3000余名が、豊かな自然や歴史文化遺産、日本や世界に誇れる産業など、様々な魅力を有するここ栃木の地に一堂に会し、親やPTAの役割を改めて問い、議論を重ねる意義は大きいものがあります。

ここに、本大会の趣旨を踏まえて、私たち会員一人ひとりが下記に掲げる事項について地道な取り組みに邁進することを宣言します。

- 1 確かな学びと課題解決の実践的能力を身につける教育の推進を支援する。
- 2 社会との関わりの中で、目標達成に向け自発的、自立的に自分の生き方を見つめ考える教育の推進を支援する。
- 3 豊かな心を育み、自らの行動を自主的・自発的に判断し実行する力を身につける教育の推進を支援する。
- 4 家庭が学校や地域と連携して、子どもたちがよりよい生き方を考え、行動できる力を育成する。
- 5 「共に生きる社会」を目指す特別支援教育の推進を支援する。